

第一編 自然と歴史

題 字	小布施町長 市 村 郁 夫
扉「濤図」	葛飾北斎筆
小布施町史刊行に当たって	小布施町史刊行会長 市 村 郁 夫

小布施の地理的位置	3	乾燥した気候条件	4
松川扇状地と集落	5	千曲川沖積地の土地利用	10
松川扇状地の土地利用	13	地域的統一性	16

第二編 原始時代

第一章 糧をもとめて

一 さすらいの狩人	19
-----------	----

歴史のはじまり	19	旧石器文化	20	赤はげ遺跡と旧石器	23
漂泊の狩人	25				

二 清水端遺跡の縄文文化	27
--------------	----

遺跡のひろがり	27	清水端遺跡	31	清水端遺跡のうつり	
かわり	35	暮らしと道具	37		

第二章 農業のはじまり……………49

一 弥生文化の波及……………49

一つの壺 49 弥生遺跡の分布 52 弥生文化の動き 57

二 あたらしい技術と暮らし……………60

住居と集落 60 農耕技術の発達 61 埋葬と宝器 64

第三編 古代

第一章 むらのくらし……………69

一 中条堀廻遺跡……………69

遺跡の調査 69 竪穴住居の状態 69 出土遺物 73

遺跡にみられるくらし 75

二 扇端の遺跡……………77

古代農民の遺跡 77 時代の動き 81

第二章 豪族のなりたち……………85

一 銚子塚と古堂塚……………85

	古墳の分布と立地	85	銚子塚	87	古堂塚	89
二	雁田山麓の積石塚群	89				
	積石塚の分布と立地	89	隼人塚古墳群の調査	93		
	古墳の状態	95	第五号墳の遺物	97		
三	積石塚とその首長たち	99				
	積石塚の時代	99	積石塚と帰化人	101	仏教の浸透	103
第三章	古代後期の社会	105				
一	郷と牧	105				
	「倭名抄」の郷と中世的郷の発生	105	古代の牧	108		
二	狩田郷と東条庄	111				
	狩田郷の成立	111	東条庄の成立	112		
第四編	中世					
第一章	鎌倉時代	119				
一	鎌倉幕府の成立と高井地方の武士	119				

源氏の挙兵 119 義仲の進出と滅亡 121
 関東武士の信濃進出 124

二 小布施の莊園 郷と武士……………127

武士支配の信濃 127 小布施の莊園と郷 129 小布施の在地
 領主たち 136 最明寺跡と時頼伝説 139 在地領主の支配 140

第二章 室町時代……………144

一 南北朝の内乱と高井地方……………144

鎌倉幕府の滅亡と中先代の乱 144 内乱と高井地方の合戦 147

二 大塔の合戦……………152

北信濃の国人の反抗 152 大塔の合戦 153

三 永享の乱とその後の高井地方……………155

信濃の統一と永享の乱 155 小笠原家の分裂とその影響 157
 越後の争乱と高井地方 159

四 高梨氏の進出と小布施……………161

高梨氏の北進と同族結合 161 高梨氏と「くぬぎ原庄」 165
 狩田郷と荻田氏 荻野氏伝説 167 高梨氏の領主的発展 170

小布施と高梨氏 174 高梨氏と小布施の周辺 178

第三章 戦国時代

一 武田氏の支配

武田信玄の信濃進出 180 川中島の戦と高井地方 183
支配関係の変化 189

第四章 室町戦国期の社会

一 寺 社

岩松院 192 浄光寺 195 そのほかの寺院 198
臨濟宗と浄土真宗 199 諏訪社 201

二 山城と居館址

山城 212 雁田城 214 飯田の館址 222

第五編 近世前期

第一章 領知の変遷と検地

一 幕藩体制と近世前期

231

231

212

192

192

180

180

幕藩体制 231 近世前期 231

二 上杉景勝の国替え……………232

景勝までの支配体制 232 検地の内容 233 初期検地の意義 234

文禄四年太閤検地 236 景勝国替えのねらい 236

三 豊臣政権支配体制の成立……………238

景勝移封あとの支配策 238 慶長三年太閤検地 238

田丸直昌 関一政の入封 239 豊臣氏蔵入地の設置 240

四 森忠政の北信濃一円支配……………241

森忠政の入封と豊臣体制の消滅 241 北信濃領知一変の戦略的

意義 242 森忠政の施策と右近検地 244 森検地の特色 244

土豪一揆と近世的支配 246

五 松平忠輝の北信濃一円支配……………247

松平忠輝領と家臣団 247 逃散百姓の還住策 248 大久保長

安条目の意味 249 四郡草山年貢帳 250 地方知行 251

六 忠輝領の変動と諸私領の成立……………252

諸私領の錯綜 252 堀直寄と小布施 253 近藤領 小笠原領

の所在 254 松平忠輝の改易 255

七 福島正則領の成立と諸領の異動……………255

めまぐるしい領主異動……………255 小布施地域の諸領主

福島正則の配流……………257 正則 正利の所領地……………259

福島正則の検地……………260 正則の新田開発と治水……………262

八 幕府直轄領(天領)の成立……………263

幕府領と真田領……………263

九 甲府領 板倉領の成立と消滅……………264

甲府領のなりたち……………264 板倉領の発足……………265

近世前期の領主変遷……………266

第二章 土地制度と貢租……………268

一 初期検地と近世的農村構造……………268

初期検地の意義……………268 近世的農村への移り変り……………268

小農自立策……………269 小農自立への道……………270

二 前期の検地……………271

検地の種類……………271 小布施地域村の検地……………273

寛永検地 延宝検地……………273 前期における農民持高……………275

三 貢租の性格と種類 …………… 277

領主権力の財政基礎 277 貢租の種類と徴収法 278

四 幕府領貢租の年貢割付 …………… 280

押切村年貢割付状 280 割付状の記載 282 前期における年貢割付の変化 283 厘取法と反取法 286

五 幕府領貢租の収納実態 …………… 289

年貢皆済状 289 石代金納 291 御蔵収納米の払いさげ換金 293 石代納の継承 295 代金納期間と小百姓 296

六 甲府領 板倉領の年貢収納 …………… 298

甲府領の年貢 298 石代納の実態 300 三分の一 三分の二 金納 302 天和・元禄期の石代納 303 板倉領の貢租 306

第三章 村の成立としくみ …………… 307

一 村の成立 …………… 307

江戸時代の村 307 新田の村 310

二 村政機関と民衆の動き …………… 317

村の政治 317 村政と民衆の動き 322

第四章 水利と林野……………324

一 水利慣行の再編成……………324

松川用水 324

二 林野利用の慣行……………329

林野の利用 329 高井野入り二十三カ村入会 332

小布施村 駒場村の小作山論 335 林野の変化 336

第六編 近世後期

第一章 領知の変遷……………341

一 幕府領……………341

小布施地方の領知の特色 341 小布施陣屋の設置 345

松代領御預所 350

二 私領の変遷……………353

飯山領・松代領の支配 353 浜田松平領 354 椎谷領の成立 355

第二章 土地と貢租

一 検地と村高の増加

新田検地と安永検地 360

村高増加の状況 361

二 宝永 正徳期の貢租

宝永期の年貢収納 362

個別農民の直接代金納制 363

正徳期の年貢収納 365

三 享保改革による貢租の転換

享保改革と石代納 366

石代納の移り変わり 367

享保十一年の改革 368

石代納をめぐる領主と農民 370

定免制の採用 371

四 幕府領後期の年貢収納

幕府領石代納の御立値段と納期 374

御立値段の実態 375

安御立値段と地主 小作人 377

幕府の冥加 運上 378

小布施村の冥加・運上 380

五 椎谷藩の年貢収納

椎谷藩の割付 皆済 385

収奪強化策と農民の抵抗 388

第三章 産業の発達……………390

一 農業の発展……………390

水田農業 390 畑作農業 393 農間余業と商品作物 395

二 手工業の発達……………396

水車稼ぎ 396 油絞り 398 酒造業 401
木綿と養蚕 製糸業のはじまり 403

三 小布施栗の発展……………406

栗林の故事 406 栗林の経営と栗の納入 409 栗菓子沿革 411

第四章 交通と商業の発達……………412

一 交通の発達……………412

北国街道と谷街道 412 千曲川西との交通 417
大笹街道 万座山越え道 417

二 運輸の発達……………421

百姓手馬の活動 421 千曲川通船と小布施 426

三 小布施の六齋市……………431

小布施の六齋市 431 六齋市の形態 435

四 小布施地方の問屋仲間 439

小布施の問屋商業 439 仲間組織と地方市場 442

五 在方商人の活動 448

木綿仲間と在方商人の紛争 448 生糸・蚕種紙の流通 450

第五章 町と村の変化 452

一 戸籍と人口 452

宗門改と檀家制 452 五人組改帳 457
村明細帳と家数・人数 461 婚姻形態 466

二 身分と家族 467

士農工商 467 初期の農民身分階層 468 小農経営の一般化 469
身分差別のすがた 471 後期の農民身分階層 473
大屋・会地 抱 475 耆軒百姓 半軒百姓 四半軒百姓 479
家族の人員構成 481 家族と労働力 483 馬と雇庸労働力 486
家の相続 490

三 農民層の分解と奉公 小作 493

土地の移動	493	農民層の分解	495	潰れ百姓と奉公	500
奉公人の移り変りと冬季出稼ぎ	503	質地小作の展開	508		
四 村方騒動	512				
村方騒動年表	512				

第六章 文化の発達	525
-----------	-----

一 武士豪農の文化	525
-----------	-----

武士 豪農文化の特色	525	椎谷藩藩校六川修道館	527
儒学と漢詩	529	国学と和歌	536
俳諧の発展	537		
絵画の動向—鴻山と北斎	541		

二 寺院と神社	546
---------	-----

寺院・僧侶の活動	546	神社の分布と特色	551
----------	-----	----------	-----

三 庶民文化	553
--------	-----

寺子屋の分布	553	授業内容	554	筆子帳	555	若者組	556
--------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----

第七章 幕末維新の動き	560
-------------	-----

一 維新の動乱	560
---------	-----

戊辰戦争 560 飯山・北越戦争 563

二 六川騒動……………565

六川騒動 565

第七編 近代前期（明治時代）

第一章 明治の変革……………571

一 新しい村の自治……………571

戸籍の作成 571 区制と上高井郡の成立 572 土地売買の自由 574

地租改正と地価調べ 575 高井入会山を奪還 576

雁田村の共有林 579 戸長と戸長役場 580 小布施 都住両

村の誕生 582 村三役と予算 583 村会・郡会・県会 587

金持ち選挙 588 小布施巡査派出所 593

宿命的な村境争い 594 字地名一覧 598 人口の動き 598

二 農業の移り変わり……………600

村の用水 600 農作物商品化へ 602 蚕種没落と養蚕勃興 604

栗とりんご 606 たばこ収納所 608 農作業と営農意識 609

村農会の活動 612 米価の推移と階層分化 613

三 商工業の発展……………615

明治前期の工産物……………615 本県最初の雁田製糸場……………617

小布施製糸の不振……………623 製油と綿布の衰退……………625

郡下一の造り酒屋……………626 栗菓子づくり……………627 労働賃金……………628

商店街の変貌……………628 全盛時代の飲食店……………630 村の資本家……………632

小布施銀行の設立……………633 都住産業組合……………634

四 交通路と通信の整備……………635

村の主要街道……………635 押切の河港……………638

信越本線の開通と小布施街道……………640 有料船橋の出現……………642

人力車と馬車の出現……………644 郵便局の始まり……………646

第二章 社会の近代化……………649

一 近代教育の展開と社会諸団体……………649

小学校教育の開花……………649 教育と財政負担……………651 消防組の創設……………654

若衆から青年会へ……………655 婦人会誕生……………657

在郷軍人分会の結成……………658 軍人優待会……………659

二 水害と治水事業……………659

上今井の新川掘り……………659 千曲川の氾濫と水害……………661

明治時代の大水害	662	松川の水害	664	天皇の見舞	666
山王島の台風害	666	水災余話	666	再墾への闘魂	667
三 村の暮らし	669				

衣・食・住	669	千曲川の漁師と生ませ師	671	神社と祭	672
寺と村びと	675	伊勢代参講	677	婚礼の慣習	677
居から浪花節へ	679	子どもの生活	680	閑院宮の来村	681
電灯の普及	681	明治の英霊	682	避病院の開設	683

第八編 近代後期（大正時代から第二次世界大戦まで）

第一章 第一次大戦の影響

一 村政の移り変わり

人口の減少	687	産業振興策と村政	688	大戦下の村財政	688
村三役と村会选择	689	郡役所廃止	692	村の四大祝賀	692
社会不安の増大	693				

二 農商工業の発展と交通

養蚕の絶頂期	694	新しい商品作物の生産	696	大麦「飯田坊主」の開発	697
水車による精米業の繁栄	698	河東鉄道小布施駅の設置	704	飯山鉄道の開通	705
商業活動の停滞	708				

三 村政上の係争問題……………709

- 高井入会山紛争 709 村境・郡境問題 711 松川の鉱毒事件 711
 延徳沖での対立 714 千曲川の大堤防建設 715

第二章 社会運動の展開……………717

一 教育・文化と社会……………717

- 中学校招致運動 717 都住小学校の災難 718
 村立図書館の創立 719 高井鴻山の頌徳 720
 村の大正デモクラシー 721 農民の文芸活動 723
 白樺派の教育活動 724 青年会の自主化運動 725

二 村の社会生活……………728

- 兵隊と飛行機 728 シベリア出兵と村民 729
 戦争成金と米騒動 730 子供たちの生活 732
 お茶の水売り 733 村の年中行事 734

第三章 戦時体制と小布施……………739

一 昭和初期の村政……………739

- 小布施村上水道の建設 739 普通選挙と無産派進出 741

第九編 現 代（第二次世界大戦終結以後）

第一章 民主主義と自治

一 戦後の村政と町政の発展……………767

村政における両派の対立 743 恐慌下の村財政 746

失業救済事業 750 横手山の鉱毒問題 751

戦争体制の確立 751 翼賛壮年団の結成と隣組 753

崩壊をたどる村政 756 戦時中の経済と生活 756

決戦下の村民生活 758 戦争と移民の犠牲者 759

民主村政への出発 767 村報について 769

食糧危機と強制供出 770 小布施町の誕生 771

町役場と公民館新築 776 須坂市との合併不成立 778

住宅問題と団地造成 779 消防体制の確立 779

二 昭和四十年代の町政の躍進……………781

増大する予算と機構 781 所得構造の変化 785

町開発公社の事業発展 790 人口動態と一万町民 791

都市計画区域指定 793 福祉事業と社会施設の整備 794

環境保全と水資源の維持 799 部落解放の推進 801

町制二〇周年記念事業 804 村 町政を支えた人人 806

三 戦前と戦後の農業……………811

- 昭和恐慌下の農業生産 811 蔬菜栽培の全盛期 814
 県下一のりんご村へ 815 歴史的な農地改革の実施 822
 水田開発と土地改良事業 830 農業機械化と共同作業 831
 畜産の推移 833 農業構造改善と圃場整備 835
 産業組合 農業会から農協へ 837 農業振興計画 840

四 商工業の移り変わり……………843

- 戦時統制下の商業 843 戦後の経済復興 844 商店街診断 846
 安市の変遷 847 製油と製糸業の終焉 849 工場の誘致政策 850
 栗菓子的发展 854 公害の発生と町条例 855

五 交通・通信と水道・ガス事業……………856

- 戦前の交通事情 856 道路整備と千曲川架橋 856
 自動車交通の発達 857 電話の普及 858 農協有線放送 858
 水道施設の拡充 858 松川用水の町管理 859
 県営ガスの導入 859

第二章 文化社会の指標……………860

一 教育の民主化……………860